

太陽が丘からもみじ谷へ

(第 103 回くらわん会 2004/12/07)

今年にくらわん会の例会が雨や台風にぶつかるなど運の良くない年だったが、先月に引き続いて快晴のさわやかな例会になった。12月とは思えない暖かい陽射しの中、116人が近鉄大久保駅の少し西にある旦棕(あさくら)神社に集まった。

会長の挨拶は、先月完成したくらわん会 100 回記念誌の宣伝と、新年度日程の説明。今年で世話役を引退される予定の長川さんが、休場中の浅見さんに代わってリーダーとして元気にコース説明があり、続いて柔軟体操までリードされた。

駅に向かって少し戻り、国道 24 号線の歩道橋を渡って、JR 奈良線新田駅近くのガードを潜ると、名木川沿いの遊歩道に出て新しい住宅地が開ける。名木川沿いの道は、遊歩道として良く整備されており紅葉が美しい。前は夏に来たせいか下水の匂いが強く、周囲の整備された風情と不釣り合いだったが、今日はまったく匂いはしない。この 2 年ほどで水質が改良されたのだろうか。

川を登りつめ立命館宇治高校の赤レンガの瀟洒な建物が見えてくると、もう川向こうは植物公園になっている。宇治市立植物公園に到着、休憩をとる。この植物公園は平成 8 年 10 月にオープンし、総面積は 10ha。起伏に富み広々とした敷地には、壁泉・カナル(水路)を軸に、正面には日本一を誇るタペストリー立体花壇、北東部右側には紅葉や木の実が楽しめる秋のゾーン、南西部左側には花木や季節の花々が楽しめる春のゾーン、修景池を中心とした夏のゾーンになっている。また、緑の休息所・温室はクリーンエネルギーによって暖房され、年間を通じて熱帯・亜熱帯植物の花が咲き誇り、回遊的に観賞できる。

立体花壇「花と水のタペストリー」には来年の干支「とり」の植え込みがしてあり、フラワーブリッジの上のアレンジメントも「とり」に変わっていた。すっかり汗ばんでしまい、ここで上着を脱ぐ姿が目につく、給水とトイレ休憩でしばしくつろぐ。花壇ではパンジーの下に、来春、花開かせるチューリップの球根の植付けが進められていた。

旦棕神社を出発、中野無線担当が、早速後続に出発の連絡



大久保小学校横から名木川沿いの遊歩道に出て新しい住宅地が開ける



名木川沿いの道は、遊歩道として良く整備されており紅葉が美しい



宇治市植物公園は平成八年十月にオープン、総面積は十ヘクタール、前に見えるのがフラワーブリッジ





緑の休憩所・温室はクリーンエネルギーで暖房、年間を通じて熱帯・亜熱帯植物の花が咲き、回遊式に観賞



フラワーブリッジの上で小休止、太陽が丘山城総合運動公園のふれあいの森の紅葉が美しい



植物公園の尾根の階段を上りきると、狭い金網を入ると運動公園



歩く紅葉したふれあいの森の広い芝生を

しばしの休憩の後、植物公園の後ろの尾根を登ると、京都府立「山城総合運動公園」ふれあいの森に入る。遊びの森へ長い階段を下りて入り、水車小屋の横を通り抜けて反対の尾根の階段を上ると公園センターや体育館、スポーツ施設が並ぶメインのエリアに入る。巨大な公園で芝生も広いので思い思いに場所を見つけて昼食に入る。

野球場が5つ、陸上競技トラックと球技場が2つずつ、テニスコートに体育館にファミリープールとすごい施設を作ったものだ。

センター前の広場からは宇治市内が一望に見え、紅葉の山々が美しい。なんと風までがそよやかに心地よく吹いている。それぞれの場所で風景と好天の季節を堪能しながら、ゆったりと昼食を摂った。

午後は歩道のない危険なダンプ街道の歩行距離を縮める為、陸上競技場横の門を特別に開いてもらった。宇治市白川集落への街道に降りてのどかな村落に入り、右に折れると白山神社への参道があり、白川金色院の惣門（江戸時代）を潜る。白川金色院は平安時代後期（康和4年・1102年）に関白藤原頼通の娘にあたる四条宮寛子（後冷泉皇后）によって創設されたと伝承される寺院で、七間四面の本堂のほか、多くの堂塔や坊舎を誇り、堂塔には金がちりばめられていたと伝えられているが、今は金色院鎮守の白山神社と像・惣門・九重石塔・古い墓石群・すぐ北側の地藏院に伝来する数体の仏像彫刻が残っている。

惣門を潜ってしばらくのところに白川金色院の説明書きと藤原鎌足からの系図が掲げられ、金色院址と紹介されている。苔むした鳥居を越えて石橋を渡ると急階段があり拝殿へ、この寄棟茅葺きの拝殿は鎌倉時代の創建で重要文化財だ。神社の横から鬱蒼と茂る東海自然歩道の「もみじ谷」に下りる。紅葉の季節ははやや遅く殆どが落ち葉になった狭い谷筋を、足元に注意しながら歩を進める。所々にまだ紅葉が残り、ようやく木漏れ日が差し込んで輝いていた。

谷を抜けると視界が広がり、対岸に紅葉をちり

ばめた宇治川に出る。天ヶ瀬吊橋で小休止して周囲の素晴らしい紅葉を楽しむ。宇治川を渡り右岸の遊歩道からは、太陽の光を透かして見事な黄金に輝くもみじの葉を、川面に煌く流れとともに心ゆくまで満喫した。宇治神社前の朝霧橋を渡り中ノ島で解散し、それぞれに京阪宇治駅に向かった。

富田朝己記



ふれあいの森から階段を降り遊びの森へ、向こうの階段を上るとメインのスポーツ施設がある

遊びの森の水場の横には色の迷路があり子どもたちが遊んでいた



反対の尾根の階段を上ると公園センターや体育館、スポーツ施設が並ぶメインのエリアに入る



レストランも付属している公園センター横のベンチで休憩

体育館前のベンチで昼食休憩



中央広場から二つの球技場の向こうに宇治市内が一望できる

ファミリープール横の広い芝生で昼食





第二球技場横を宇治側出口に向かう、向かいの山の紅葉が美しい

のどかな陽射しの中を宇治白川集落に向かつて下る



白川金色院は平安時代後期に関白藤原頼通の娘にあたる四条宮寛子によって創設されたと伝承される寺院で、惣門と鎮守社の白山神社などが残っている
宇治市白川集落の、のどかな街道を行く



白川金色院址近くにある白山神社の鳥居横に金色に輝く木があった

鬱蒼とした森の手前に苔むした白山社の鳥居があり、石橋を渡ると拝殿への急階段だ



階段を上りきったところにある白山神社拝殿は鎌倉時代の重要文化財

鬱蒼とした木々に遮られて余り日の差し込まない薄暗い谷道は天気がよい日でも湧き水でぬかるんで滑りやすい





もみじ谷の広場の紅葉は、もうすっかり落ちてしまっていた

もみじ谷を抜け、広がる眺望の対岸や周囲の山々の紅葉を鑑賞しながら宇治川左岸を気持ちよく歩く



天ヶ瀬吊橋から上流を観ると山々が見事に紅葉してまぶしいようだ

紅葉を眼で楽しみカメラに収めながら吊橋を渡る



眼に焼きつくような見事な宇治川右岸遊歩道の紅葉

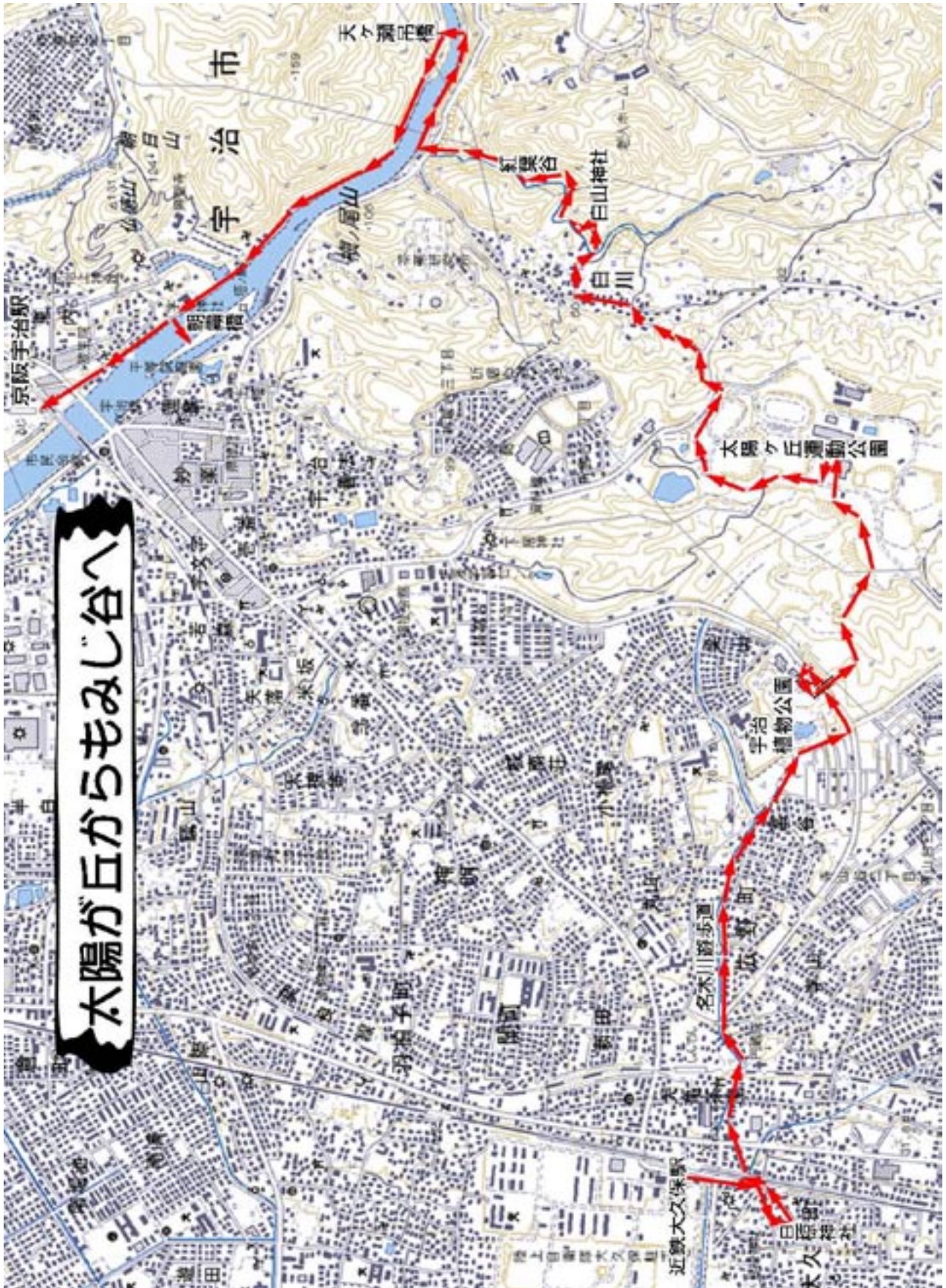
影 逆光の陽射しに輝く紅葉を背に記念撮



宇治発電所の前を紅葉を楽しみながら宇治駅に向かう

宇治神社前の朝霧橋を渡り中ノ島で解散、後は三々五々と宇治駅に向かう





<行程>

近鉄大久保駅⇒且棕神社⇒名木川遊歩道⇒宇治市植物公園⇒太陽ヶ丘運動公園⇒白山神社⇒紅葉谷⇒天瀬吊り橋⇒宇治川右岸道⇒塔の島⇒京阪宇治駅 約8 km

2004年12月07日(火) 第103回例会 116名参加